

2006年5月15日公表

各 位

北海道生産性本部

## 2006年度 道内新入社員意識調査＜要旨＞

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より当本部の諸活動につきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、北海道生産性本部（会長 岡部 三男）では、昨年度から（財）社会経済生産性本部 経営革新部と共同で2006年度の新入社員を対象とした「若者意識アンケート」を実施し、集計・分析のうえ、4月26日付けで調査結果を公表しているところです。今回、当本部ではさらにこの調査データの中から道内分を抽出し、道内と道外の新入社員の意識の比較ならびに今年度と昨年度の道内新入社員の意識の比較を試みました。

つきましては、以下のとおり、本調査結果をご報告申し上げますので、次世代を担う若手従業員についての情報として、ご活用賜りますれば幸甚に存じます。

敬具

### 記

#### 1. 調査方法：

道内データについては、2006年3月～4月に実施した当本部主催の新入社員研修時および調査依頼企業内における新入社員研修時に「若者意識アンケート」を配布し、回収した890通について集計・分析した。（道内データ回収率94.8%、比較対象道外データ1,071通）

※各設問の未回答者分は削除してあります。

#### 2. 添付書類：

(1) 本調査結果要旨（本紙含め4ページ）

「今年度の道内と道外の比較」および「道内の今年度と昨年度の比較」について、特に違いのあった調査結果を纏めております。

(2) 集計表（5ページ）：全ての設問データを掲載しております。

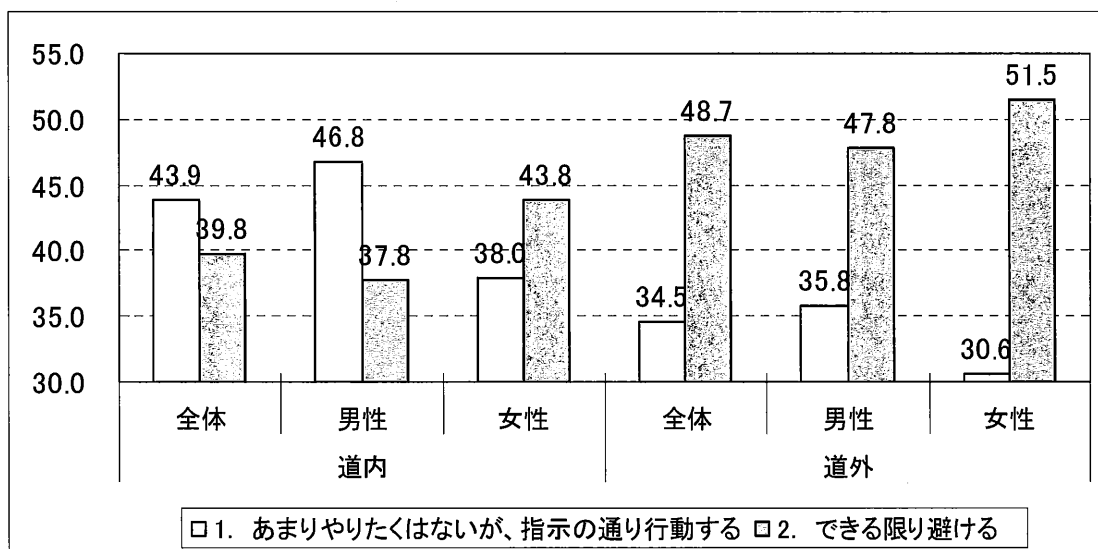
(3) 属性（1ページ）：調査対象者の属性（性別・年齢など）を掲載しております。

### 3. 調査結果要旨：

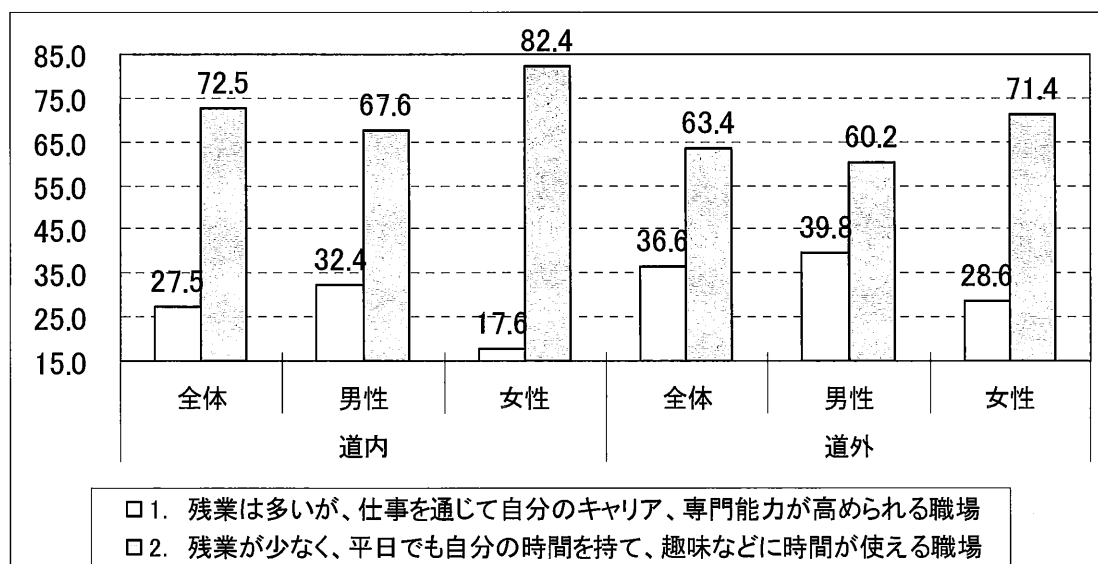
#### (1) 今年度の道内と道外の比較

- ①上司から会社のためにはなるが自分の良心に反する手段で仕事を進めるように指示された場面での対応について、「あまりやりたくはないが指示通り行動する」が道内 43.9%、道外 34.5%、「できる限り避ける」が道内 39.8%、道外 48.7%となった。特に「あまりやりたくないが指示通り行動する」では道内男性が5割弱に達し、道外男性・女性に比べて高い水準となった。

<Q5 (e)>

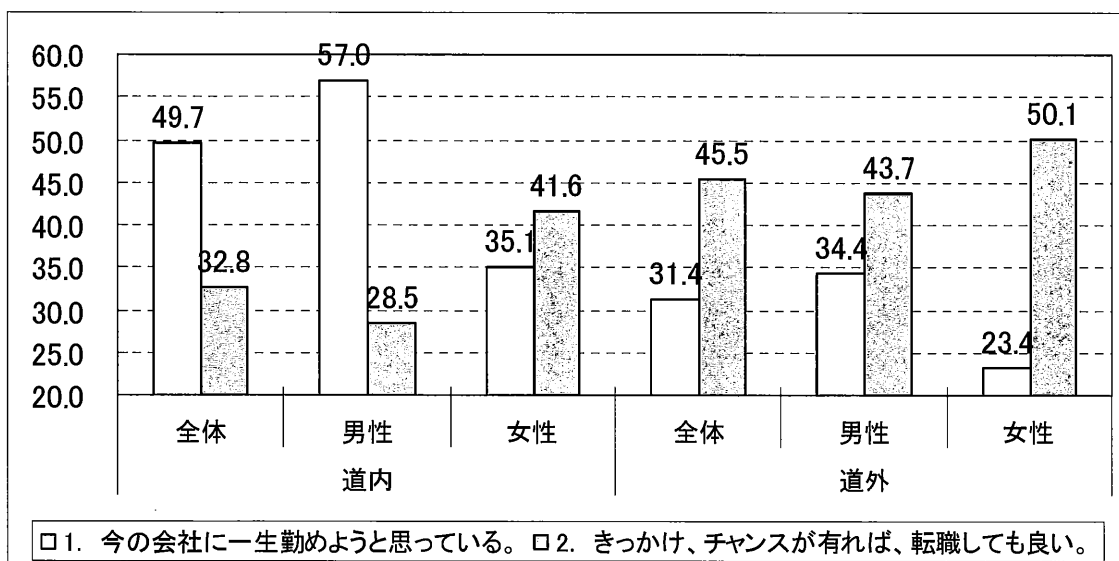


- ②どちらか好きなタイプの職場を選ぶ設問のうち、残業に係わる設問では、「残業は多いが仕事を通じて自分のキャリア、専門能力が高められる職場」が道内 27.5%、道外 36.6%、「残業が少なく平日でも自分の時間を持って、趣味などに時間が使える職場」が道内 72.5%、道外 63.4%となり、道内・道外ともに後者を好む傾向が高かった。<Q6 (d)>



③転職については、「今の会社に一生勤めようと思っている」が道内 49.7%、道外 31.4%、「きっかけ、チャンスがあれば転職しても良い」が道内 32.8%、道外 45.5%となった。特に「今の会社に一生勤めようと思っている」では、道内男性の水準が 6 割強に達し、3 割強の道外男性との格差が際立っている。

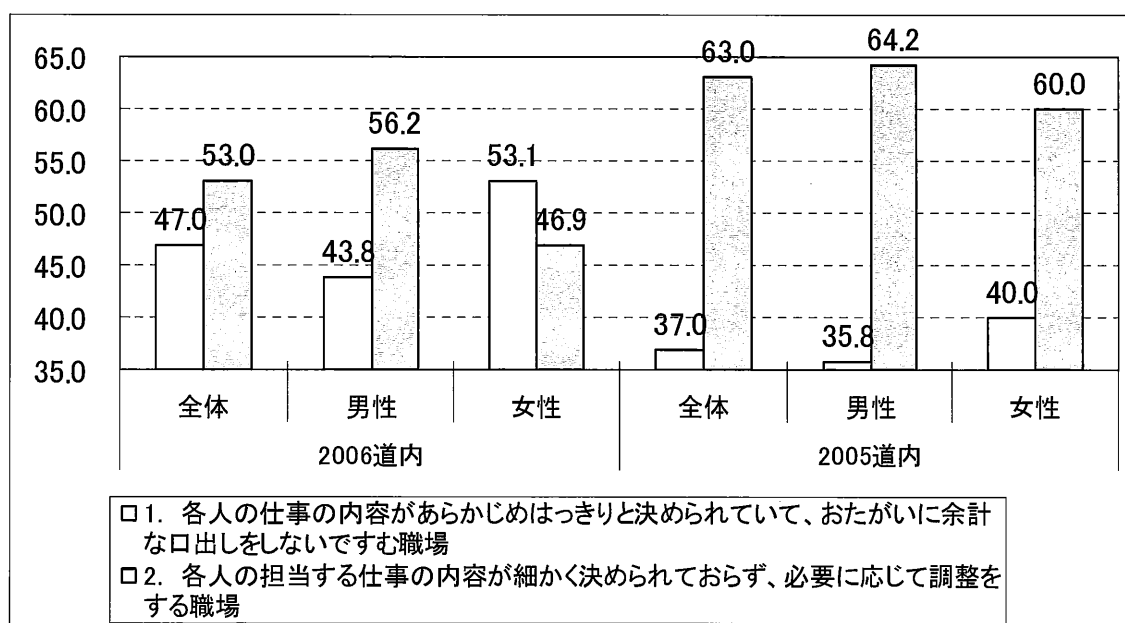
<Q9 (c)>



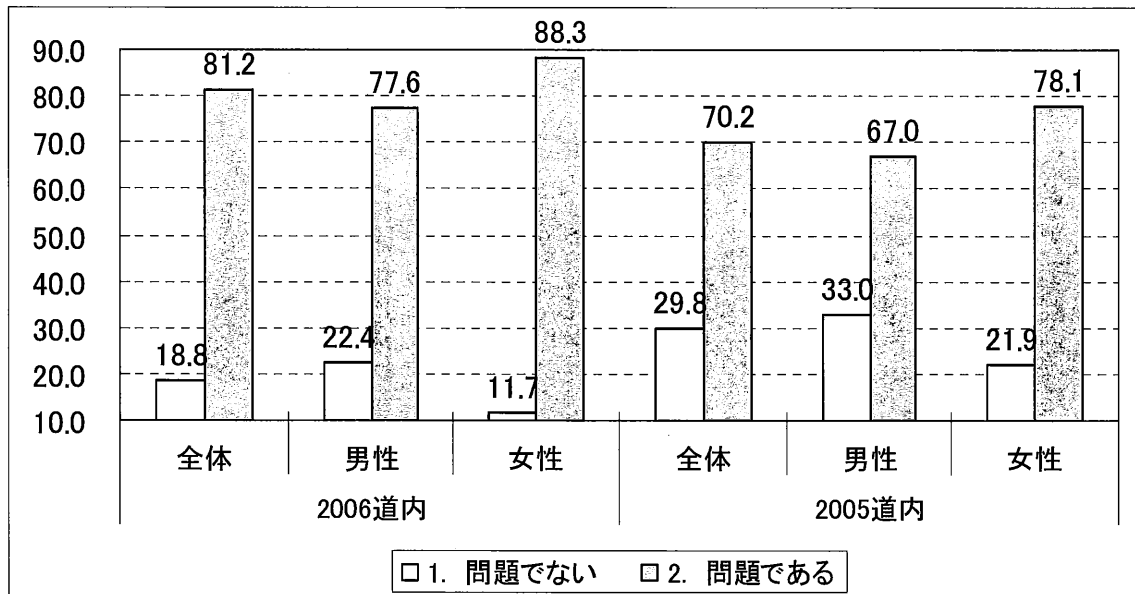
(2) 道内の今年度と昨年度の比較

①どちらか好きなタイプの職場を選ぶ設問のうち、仕事の進め方に係わる設問では、「各人の仕事の内容があらかじめはっきり決められていてお互いに余計な口出しをしないですむ職場」が今年度 47.0%、昨年度 37.0%、「各人の担当する仕事の内容が細かく決められておらず必要に応じて調整する職場」が今年度 53.0%、昨年度 63.0%となり、男性・女性とも前者を好む傾向が高まった。

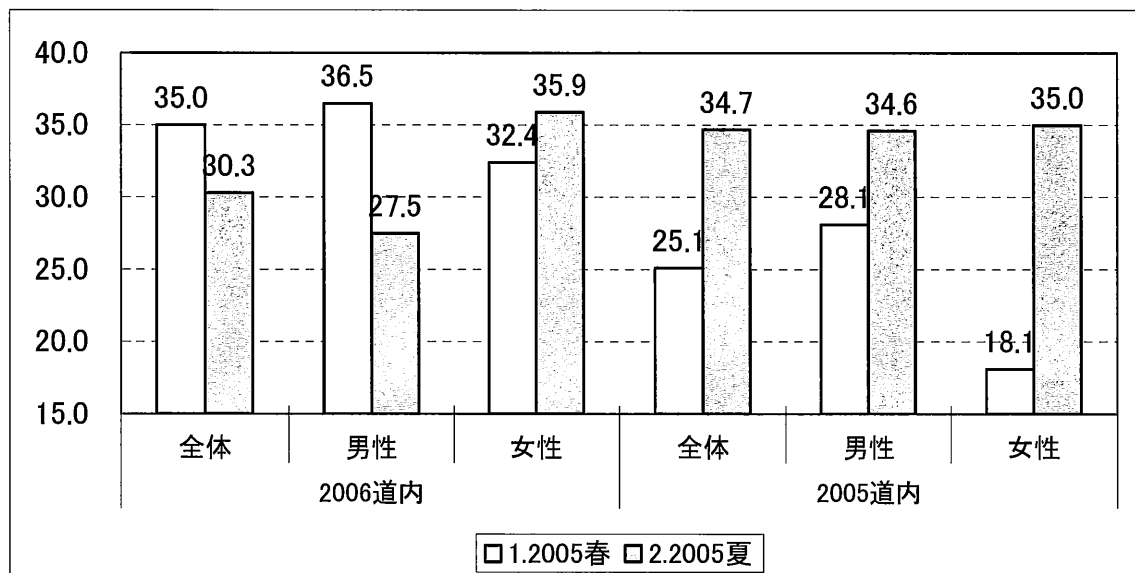
<Q6 (a)>



②「従来の基準や慣習には反しても法律に反しないことであれば、多少強引な手段や方法をとること」に「問題でない」は今年度 18.8%、昨年度 29.8%、「問題である」が今年度 81.2%、昨年度 70.2%となり、コンプライアンスや倫理に対する感度の高まりが伺われる。〈Q7 (m)〉



③就職した会社の内定時期について、「2005 年春」が今年度 35.0%、昨年度 25.1%、「2005 年夏」が今年度 30.3%、昨年度 34.7%となり、内定時期が若干早まっている様子が伺われる。〈Q10 (d)〉



以上

【お問い合わせ先】北海道生産性本部（担当：澤田）

〒060-0001

札幌市中央区北1条西2丁目 北海道経済センター6階

TEL 011-241-8591 FAX 011-241-3898